

令和6年度 高崎市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和7年5月

高崎市（群馬県）

I. 中心市街地全体に係る評価

〇計画期間: 令和2年4月～令和7年3月(5年)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市の中心市街地は、令和2年3月に「第3期高崎市中心市街地活性化基本」の認定を受け、5年を計画期間として中心市街地活性化に継続して取り組んできた。高崎駅から徒歩圏内には、高崎アリーナや高崎芸術劇場、Gメッセ群馬などの大規模集客施設が整備され、また、高崎駅西口には大型商業施設、高崎オーパなどが開業し、高崎駅周辺は多くの交流人口により賑わいあふれる都市へと変化している。

さらに、駅周辺を訪れる多くの来訪者を中心市街地に回遊させるためのソフト事業として「お店ぐるりんタクシー運行事業」や「まちなかコミュニティサイクル推進事業」などを継続して実施し、また「まちなか商店リニューアル助成事業」などで魅力ある店舗や景観の整備を進め、中心市街地の活性化に努め、一定の事業効果が現れてきている。

一方、駅周辺の来訪者が中心市街地全体に回遊しない状況も一部見られることから、引き続き中央銀座アーケード街など既存の商店街を活用したイベントを継続して実施するとともに、「お店ぐるりんタクシー運行事業」などの回遊性向上施策に、現在取り組んでいるところである。

今後も、官民が連携し、高層マンションなどの住宅整備を引き続き進め、中心市街地の活力の源となる居住人口の増加と地域コミュニティの維持・増進を図り、中心市街地の活性化につながる、各種施策の推進に努めて行く。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日: 毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	28,234 人	28,436 人	28,473 人	28,415 人	28,267 人	28,287 人
人口増減数		202 人	37 人	△58 人	△148 人	20 人
自然増減数		△50 人	△96 人	△103 人	△104 人	△95 人
社会増減数		252 人	133 人	45 人	△44 人	△75 人
転入者数		1,650 人	1,748 人	1,591 人	1,576 人	1,662 人

(2)地価

(単位：円/㎡)

(主な中心市街地区 域の地点)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
八島町 63 番 1 外	485,000	500,000	505,000	509,000	513,000	517,000
連雀町 85 番 1 外	208,000	207,000	208,000	208,000	208,000	—
通町 52 番 1	199,000	201,000	203,000	206,000	211,000	217,000
栄町 11 番 10	361,000	373,000	382,000	386,000	393,000	401,000

※連雀町 85 番 1 外は、令和 6 年度国土交通省地価公示（標準地）地点変更に伴い公表がないため、不記載

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

☒ ①概ね予定通り進捗・完了した

☐ ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

☐ ①活性化した

☒ ②若干活性化した

☐ ③計画策定時と変化なし

☐ ④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

第3期基本計画では、5分類、66事業を位置付け各事業の進捗管理をおこない、計画期間（令和6年度末）内までに完了した事業が3事業（5%）、実施中が63事業（95%）となり、新型コロナウイルスの影響も受けたものの、「概ね予定通り進捗・完了した」といえる。

活性化状況別に見ると、都市集客施設の利用者数においては、コロナの影響に加えて、都市集客施設の整備が、本計画期間内に完了しない事業もあったが、基準値の約1.4倍の1,216,326人となり、一定の事業効果はあった。

また、歩行者・自転車通行量においては、新型コロナウイルスによる生活スタイルの変化などから、最新値41,971人と基準値・目標値に届かない状況となった。引き続き、まちなかの回遊性向上と賑わいの創出に資するソフト事業を継続し、新たなアイデアも取り入れて事業の推進を図る必要がある。

区域内居住人口においては、目標値には届かないものの、基準値から微増の28,313人となった。全国的に人口減少が進む中、中心市街地の居住人口増加に資する施策効果や、民間による高層マンションの建設などにより、一定の成果が現れている。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ☒ ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

高崎市では、令和2年4月から令和7年3月（5年間）までの第3期高崎市中心市街地活性化基本計画を策定し、高崎駅周辺における都市集客施設整備の効果を活かすとともに、まちなかにおける各種イベントの実施を通じて活性化と賑わいの創出を図るため、各種事業を積極的に推進してきました。

第3期基本計画は、世界規模の新型コロナウイルスの影響もあり、当初定めた目標値に至っていない状況はあるものの、「都市集客施設の利用者数」、「区域内居住人口」は基準値を超えるなど、各種事業の成果が現れており、着実に中心市街地の賑わい創出につながっていると評価しています。

今後も、第3期基本計画の成果を踏まえ、第4期基本計画に位置付けた各種事業を推進し、新たな事業の検討をおこない地域全体の魅力向上と経済活性化を図り、市民や訪問者にとって魅力的な中心市街地を目指し、引き続きまちなかの活性化を推し進めていきたい。

当協議会も、行政と連携を強化し、課題を克服しながら地域全体の魅力向上と活性化を図り、市民や訪問者にとって魅力的な中心市街地の実現に向け積極的に取り組んでまいります。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ☒ ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

第23回市民の声アンケート

実施時期：令和6年10月

調査地域：高崎市全域

調査対象：令和5年8月1日時に住民登録されており、かつ令和6年8月1日時に住民登録されている満18歳以上80歳未満の市民6,000人

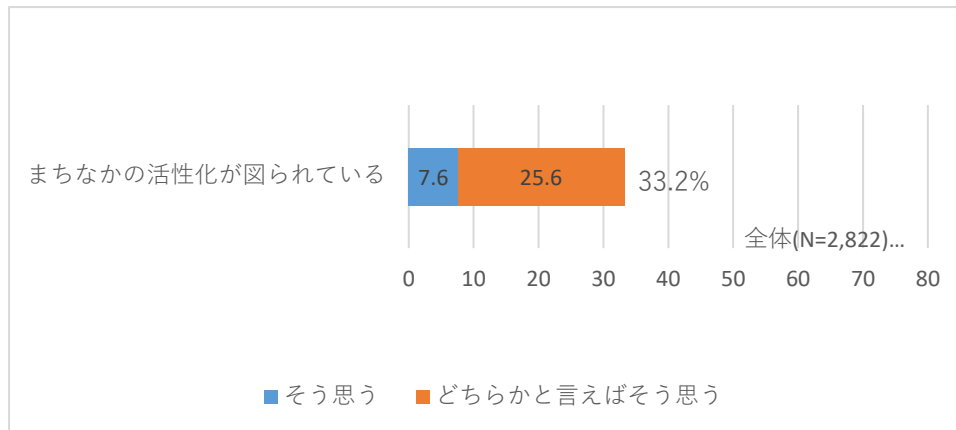
抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

調査方法：郵送により調査票を送付し、郵送またはWebにより回収

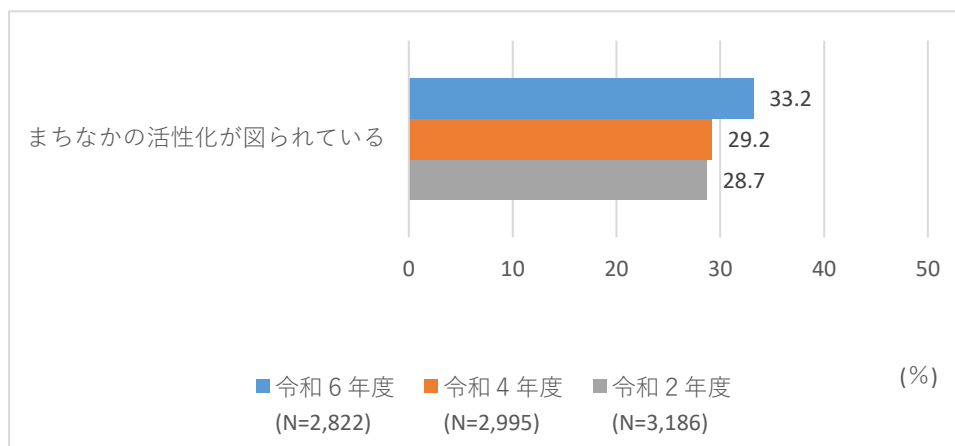
回収数：2,822件　うちWeb回答は869件　（前回は2,995件）

回収率：47.0%　（前回：49.9%）

■高崎市の印象についてどう思いますか



■経年分析（過去2回との比較）



このアンケートの結果の中で、現在の高崎市の印象について「まちなかの活性化が図られている」という項目に対してどう思うかを回答する設問では、「そう思う」と回答した人の割合は7.6%さらに「どちらかと言えばそう思う」と回答した人の割合が25.6%であり、合計すると33.2%の市民が、「活性化が図られている」と感じている。

また、経年分析の結果を見ると、「まちなかの活性化が図られている」との回答は、年々増加傾向にあり、令和2年と比較して、令和6年は4.5ポイント上昇している。

これらの調査結果から市民の「まちなかの活性化」に対する評価は高まっていることが伺える。以上のことから、市民意識の変化については「若干活性化した」と判断する。

6. 今後の取組

第3期基本計画は、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、高崎駅周辺における都市集客施設整備の効果を最大限に活かすとともに、年間を通して実施している各種イベントの実施を通じて、まちなかの活性化と賑わいを創出し、その効果を中心市街地全体に波及させる計画として一定の成果が見られた。

今後は、第3期基本計画を継承した第4期基本計画に基づき、今後整備の進む「高崎駅東口栄町再開発事業」などによる新たな賑わい拠点の形成や、「お店ぐるりんタクシー運行事業」や「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」などによる回遊性向上施策を継続し、本市中心市街地の活性化と賑わいの創出を図っていく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から 目標値まで の幅の8割 ライン	最新値		達成 状況
					(数値)	(年月)	
来訪者で賑 わう集客拠点 ゾーンの形成	都市集客施 設の利用者 数の合計値	883,107 人/年 (H30)	2,235,000 人/年 (R6)	1,964,000 人/年	1,216,326 人/年	R7.3	B2
市民や来訪 者が楽しく回 遊できる中心 市街地の形 成	歩行者・自転 車通行量 (休日)	49,933 人/日 (H30)	58,800 人/日 (R6)	57,000 人/日	41,971 人/日	R6.10	C
快適・便利な 街中居住が 享受できる中 心市街地の 形成	区域内居住 人口	28,296 人 (H30)	30,100 人 (R6)	29,700 人	28,313 人	R7.3	B2

< 達成状況の分類 >

A : 目標達成、B1 : 概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2 : 基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C : 基準値に及ばない

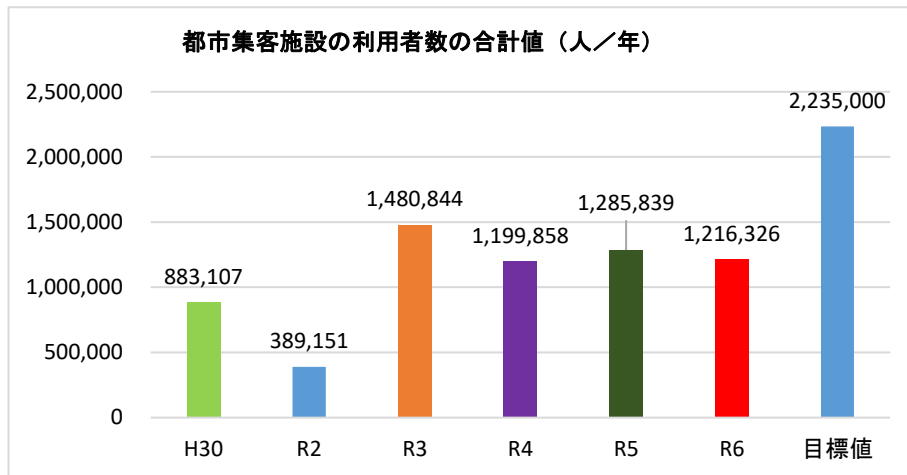
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。(例 : a、b1、b2、c)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「都市集客施設の利用者数の合計値」(目標の達成状況【B2】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 42～P. 43 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
H30	883,107 (基準年値)
R2	389,151
R3	1,480,844
R4	1,199,858
R5	1,285,839
R6	1,216,326
R6	2,235,000 (目標値)

※調査方法：利用者数調査（独自調査）

※調査月：令和7年3月（最終年度のため3月調査とした）

※調査主体：高崎市

※調査対象：群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館、高崎市タワー美術館、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ群馬、高崎市東町市民活動センター（整備中）

〈分析内容〉

都市集客施設の利用者数は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、目標値には届かないものの、基準値は超えたため、達成状況は【B2】とした。令和2年は行動制限等により利用者数は大幅に減少したが、令和3年は一転して「Gメッセ群馬」が新型コロナウイルスワクチン接種会場となり、利用者数が大幅に増加した。令和4年以降は各集客施設において感染対策を講じ、積極的に各種イベントを開催したため、基準値を超える利用者数となった、しかし、当初開館を見込んでいた施設の開館が間に合わないことなどもあり、最新値は基準値を超えたものの、目標値には達しなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 高崎音楽祭（高崎音楽祭委員会）

事業実施期間	平成2年度～【実施中】
事業概要	高崎芸術劇場を中心として、群馬音楽センターや高崎シティギャラリーなど中心市街地の至るところで、クラシックやジャズなど、期間中様々なジャンルの音楽イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は363,000人以内数（令和6年度の年間来場者数313,627人）としている。 令和6年度は、19公演の開催、延べ18,144人の参加があった。

達成した（出来なかった）理由	事業目標値は 363,000 人の内数(令和 6 年度の年間来場者数 313,627 人)とし事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	高崎芸術劇場を中心として、群馬音楽センターや高崎シティギャラリーなど中心市街地の至るところで、クラシックやジャズなど、期間中様々なジャンルの音楽イベントを実施することで、集客効果に寄与した。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

②. 企画文化事業（高崎市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 7 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は 363,000 人の内数（令和 6 年度の年間来場者数 313,627 人）としている。令和 6 年度は、73 事業の開催、延べ 71,915 人の参加があった。昨年度と比較し、1 事業、10,791 人の増加となった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は 363,000 人の内数(令和 6 年度の年間来場者数 313,627 人)とし事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客向上を図れた。
事業の今後について	音楽や芸術文化活動によってまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

③. 群馬交響楽団定期演奏会（公益財団法人 群馬交響楽団）

事業実施期間	昭和 20 年度～【実施中】
事業概要	“音楽のある街 高崎”を代表する群馬交響楽団によるコンサートを高崎芸術劇場で年間 10 回程度実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	舞台芸術創造活動活性化事業（文化庁）（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は 363,000 人の内数（令和 6 年度の年間来場者数 313,627 人）としている。令和 6 年度は、10 回の開催、延べ 14,796 人の参加があった。昨年度と比較し、事業回数は変わらないが、980 人の減少となった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は 363,000 人の内数(令和 6 年度の年間来場者数 313,627 人)とし事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	音楽のある街 高崎 を代表する群馬交響楽団によるコンサートを実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客を図れた。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

④. 高崎芸術劇場集客推進事業（高崎市、公益財団法人 高崎財団、民間事業者等）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	新たな都市集客施設として開館した高崎芸術劇場において、行政と民間が連携して様々な事業を開催し、まちなかの賑わいにつなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は363,000人以内数（令和6年度の年間来場者数313,627人）としている。令和6年度は、301事業の開催、延べ180,690人の参加があった。昨年度と比較し、28事業、9,388人の増加となった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は363,000人以内数（令和6年度の年間来場者数313,627人）とし事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	高崎芸術劇場において、行政と民間が連携して様々な事業を開催し、まちなかの賑わいに寄与した。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

⑤. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成22年度～令和10年度【実施中】
事業概要	高崎駅東口に店舗、オフィスなどの都市機能を備えた再開発ビルを整備することで、隣接する高崎芸術劇場と一体で、中心市街地の新たな賑わい拠点を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等（高崎駅東口栄町地区））（国土交通省）（令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、再開発ビル内の子ども図書館、キッズスペースなどのパブリックゾーンの利用者数37,000人以内数としている。 本事業は、社会情勢等を踏まえ、施設計画の見直しを行った。 その結果、計画からホテルを除くなどの見直しを行い、また、事業実施期間を令和10年度までとした。
達成した（出来なかった）理由	施設計画の見直し等で、計画期間内の事業効果に十分寄与出来なかった。
計画終了後の状況及び事業効果	施設計画の見直し等で、計画期間内の事業効果に十分寄与出来なかった。
事業の今後について	今後は、再開発準備組合で事業計画の策定を行い、法定再開発組合の設立を目指し、権利者間での協議を進めていく。

⑥. 再開発と一体となったまちづくり検討業務（高崎市）

事業実施期間	令和5年度～令和6年度【済】
事業概要	高崎駅東口に建設する再開発ビルに子ども図書館やキッズスペース、ギャラリー等を整備することにより、中心市街地における多世代の市民の来訪や交流を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（高崎駅周辺地区）（令和5年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、再開発ビル内の子ども図書館、キッズスペースなどのパブリックゾーンの利用者数37,000人以内数としている。 現在は、再開発事業自体の進捗に合わせて準備を行っているところであ

	る。
達成した（出来なかった）理由	計画期間内の事業効果に十分寄与出来なかった。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間内の事業効果に十分寄与出来なかった。
事業の今後について	今後は、再開発事業の進捗に合わせて設計を進め、事業着手を早期に実現する。

⑦. 高崎市東町市民活動センター建替事業（高崎市）【令和４年度追加】

事業実施期間	令和２年度～令和６年度【実施中】
事業概要	老朽化した既存建物を建替え、勤労者の福利厚生や地域住民のレクリエーション活動等のための会議室、体育館等を整備し、中心市街地における多世帯の市民の来訪や交流を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（高崎駅周辺地区） （令和３年度～令和６年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業が、施設計画の見直しにより、計画期間内の完成が見込まれなくなったため、これを補完するためにこの事業を追加した。令和７年度の事業完成に向けて進めている。
達成した（出来なかった）理由	工期に遅れが生じ、竣工が令和７年度に延びたため、事業効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	老朽化した既存建物を建替え、勤労者の福利厚生や地域住民のレクリエーション活動等のための会議室、体育館等を整備し、中心市街地における多世帯の市民の来訪や交流の促進に寄与する。
事業の今後について	今後は、実施設計に基づき、工事を進め、早期に完成できるよう進める。

●今後の対策

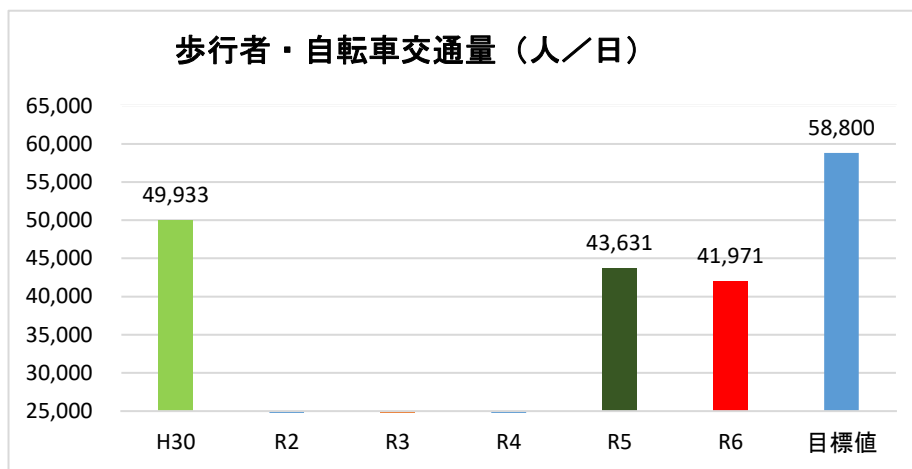
「都市集客施設の利用者数の合計値」は、高崎駅東口に整備された高崎芸術劇場など文化施設を活用し、群馬交響楽団の演奏会や高崎音楽祭のコンサートなど様々なイベントを、行政と民間が連携して開催することで事業効果が現れており、第３期基本計画で未完了の都市集客施設などのハード整備を引き続き進めることにより、さらなる事業効果が見込めます。

次期計画においては、既存の７つの文化、スポーツ施設に加え、高崎市東町市民活動センターを新たに都市集客施設として追加し、第３期基本計画の事業効果も検証しつつ、文化、スポーツ、ビジネスなど幅広い層の集客に取り組み、広く中心市街地の集客力を計測することとする。

(2)「歩行者・自転車通行量(休日)」(目標の達成状況【C】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 44～P. 49 参照

●調査結果と分析



年	(人/日)
H30	49,933 (基準年値)
R2	未実施
R3	未実施
R4	未実施
R5	43,631
R6	41,971
R6	58,800 (目標値)

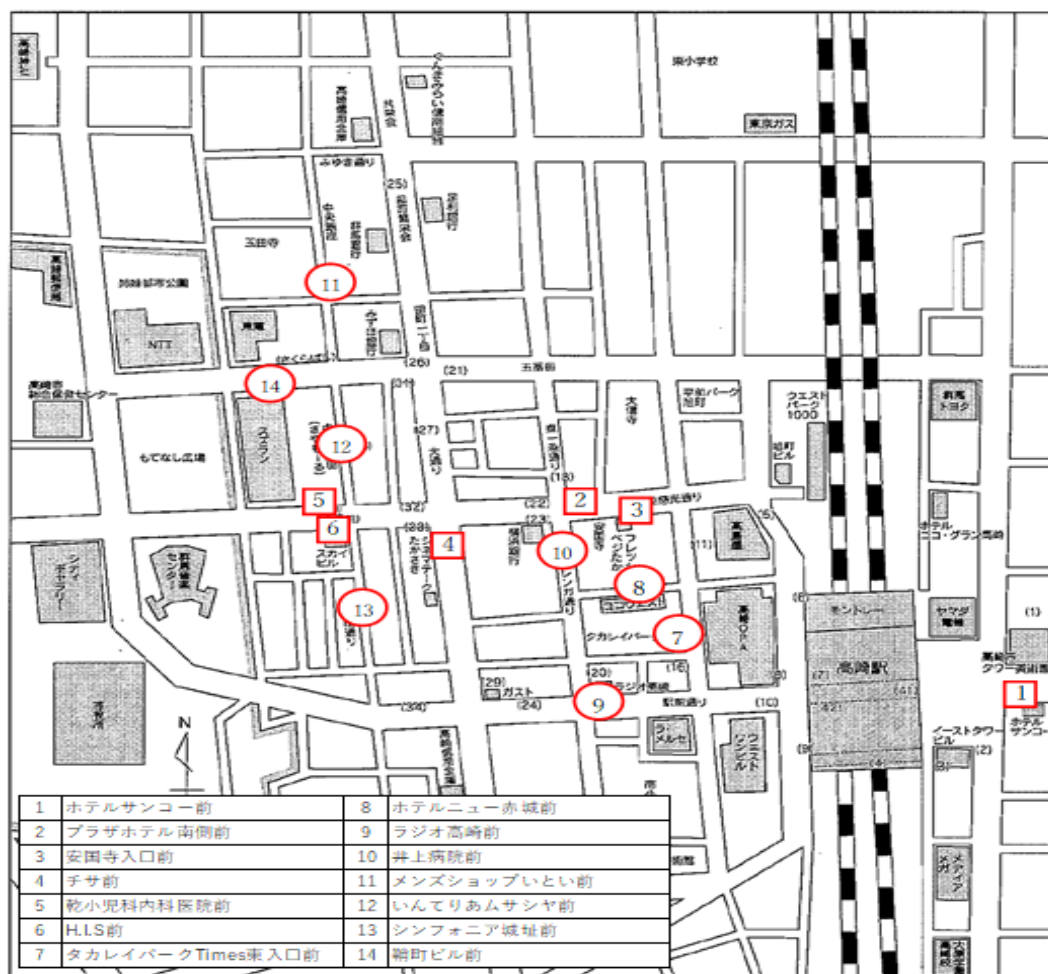
※調査方法：中心商店街及び高崎駅東口の14地点で10時～20時まで計測

※調査月：毎年度10月末の休日

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地14地点における歩行者及び自転車の通行量

(□印：2期計画からの継続6地点、○印：新規8地点、合計14地点)



(単位：人)

	平成 30 年度 (基準値年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)
地点 1	4,688	新型コロナ ウイルス感 染症の感染 拡大防止の ため未実施	新型コロナ ウイルス感 染症の感染 拡大防止の ため未実施	新型コロナ ウイルス感 染症の感染 拡大防止の ため未実施	6,987	6,406
地点 2	2,420				2,323	1,931
地点 3	3,572				2,680	1,931
地点 4	1,595				940	1,805
地点 5	3,740				2,658	1,937
地点 6	2,732				1,231	1,747
地点 7	10,638				8,247	8,768
地点 8	5,596				3,042	3,112
地点 9	5,946				6,737	5,644
地点 10	2,258				2,309	1,874
地点 11	1,632				1,937	1,872
地点 12	2,138				1,972	2,220
地点 13	982				863	678
地点 14	1,996				1,705	2,046
合計	49,933				43,631	41,971

〈分析内容〉

「歩行者・自転車通行量（休日）」は、新型コロナウイルスの影響に伴う生活スタイルの変化などの影響を受け、基準値を下回ったため、達成状況は【C】とした。

令和 6 年度調査では、基準値比で 84.0%となったが、この主要要因としては、民間マンションの建設に伴う店舗解体や、一部大型店舗の売り場面積や販売内容の縮小などに伴う来訪者動向の変化によることが考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. お店ぐるりんタクシー運行事業（高崎市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を循環する、乗り降り自由で無料の交通手段を整備することによりさらなる回遊性向上を図るとともに、交通弱者支援にもつなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 7 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 100 人としている。令和 6 年度は、年間延べ 33,731 人で 1 日あたり 93 人の利用があった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 100 人とし、事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地を循環する、乗り降り自由で無料の交通手段を整備することによりさらなる回遊性向上を図るとともに、交通弱者支援にもつながった。

事業の今後について	まちなかの賑わいと回遊性をさらに向上させるために事業を継続していく。
-----------	------------------------------------

②. 空き店舗等情報発信事業（高崎市）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗に関する様々な情報を発信する総合サイトを活用して、空き店舗所有者と出店希望者のマッチングを支援することにより、中心市街地の商業活性化を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 1,320 人としている。中心市街地の空き店舗数は、空き店舗情報の活用により、昨年度の 23 店舗に 12 件の新規出店あり、まちなかの商業活性化や回遊性向上に寄与した。一方、空き店舗は新たに 12 件増え 23 店舗となった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 1,320 人とし、新規出店もあり事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	空き店舗に関する様々な情報を発信する総合サイトを活用して、空き店舗所有者と出店希望者のマッチングを支援することで、中心市街地の商業活性化に寄与した。
事業の今後について	まちなかの商業活性化を推進する事業として継続していく。

③. 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（区域内外装工事分）（高崎市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の店舗等で、通りに面した外装工事を行う際の費用の一部を支援することにより、店舗の魅力アップとまちなみの景観整備につながり、集客力の向上と賑わいの創出に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 7 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	この事業は、歩行者・自転車通行量の増加を目標としている。令和 6 年度は、中心市街地内で本事業の制度を活用した店舗のうち、その約 3 割、37 件が外装工事を行った。
達成した（出来なかった）理由	この事業を推進することで、歩行者・自転車通行量が増加し中心市街地の活性化に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の店舗等で、通りに面した外装工事を行う際の費用の一部を支援することにより、店舗の魅力アップとまちなみの景観整備につながり、集客力の向上と賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	引き続き、個店の魅力向上とまちなみの景観整備のために事業を継続していく。

④. 高崎駅東口第九地区市街地再開発事業（高崎駅東口第九地区市街地再開発施行者）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	当該地区に土地の高度利用を促進するため、共同住宅、駐車場、ペデストリアンデッキ等を整備し、高崎駅東口周辺の居住人口の増加と駐車場不足の解消、歩行者の回遊性向上に対応する。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（平成 27 年度） 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成 28 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、新規住民の増加に伴う歩行者・自転車通行量における効果を 1 日あたり 1,166 人としている。令和 2 年度の事業完了によりマンションへの入居が進み、570 人（住民登録の人口をもとに算出）分の効果が見られた。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、新規住民の増加に伴う歩行者・自転車通行量における効果を 1 日あたり 1,166 人としているが、事業効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	当該地区に土地の高度利用を促進するため、共同住宅、駐車場、ペデストリアンデッキ等を整備することで、高崎駅東口周辺の居住人口の増加と駐車場不足の解消、歩行者の回遊性向上に寄与した。
事業の今後について	交通の利便性や託児などの子育て環境の充実など住んでみたいと思われる魅力あるまちづくりを進め、空室への入居を促し、居住人口や歩行者・自転車通行量の増加につなげる。

⑤. 高崎市居住誘導策（高崎市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	高度利用地区の指定を行うことにより、容積率の緩和などを制度化することで、集合住宅等の立地を促進し、中心市街地の活力の源である居住人口とまちなかの通行量の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 1,750 人を見込んでいる。令和 6 年度は、2 棟のマンションが完成し、令和 2 年度から令和 5 年度までに完成した 8 棟と合わせ、1,078 人（住民登録の人口を基に算出）分の効果が見られた。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 1,750 人としているが、事業効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	高度利用地区の指定を行うことにより、容積率の緩和などを制度化することで、集合住宅等の立地を促進し、中心市街地の活力の源である居住人口とまちなかの通行量の増加に寄与した。
事業の今後について	現段階では当該制度を活用した事例がないため、民間事業者の活用促進を図り、土地の有効活用や建物の高層化などの住宅整備を進めていく。

⑥. 多機能型住居住宅借上事業（高崎市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	多世代間交流を目的に整備された民間管理の多機能型住居において、高齢者や介護士、保育士、看護師等の職業を目指す学生等が入居できるよう、市が住宅借上等の支援を行うことで、まちなかの居住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、入居者数の維持による歩行者・自転車通行量における効果を 160 人としている。令和 6 年度末で 132 人（住民登録の人口を基に算出）分の効果が見られた。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、入居者数の維持による歩行者・自転車通行量における効果を 160 人とし、事業効果に寄与した。

計画終了後の状況及び事業効果	多世代間交流を目的に整備された民間管理の多機能型住居において、高齢者や介護士、保育士、看護師等の職業を目指す学生等の入居に寄与した。
事業の今後について	学生等の年度変わりでの入退居に対して、入居者の維持が図れるよう努めていく。

⑦. 高崎まちなかオープンカフェ推進事業（高崎まちなかオープンカフェ推進協議会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	都市再生特別措置法の改正を契機に歩道上でオープンカフェが行えるようになったことから、まちなかに新たな回遊性と賑わいを創出するため実施している事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 7 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 20 人としている。令和 6 年度は、猛暑の影響や天候に恵まれず、1 日あたり 13.7 人の利用となり、昨年度より利用者は減少となった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標の歩行者・自転車通行量における効果として 1 日あたり 20 人とした集客効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	事業目標は達成出来なかったが、歩道上でオープンカフェをおこなうことにより、まちなかにあらたな回遊性と賑わいの効果が見られた。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出を図っていくために協議会と連携しながら、参加店舗増、SNS 等を活用した周知広報活動などを継続的に進めていく。

⑧. 中央銀座アーケード街活性化事業（高崎市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	再整備した中央銀座アーケード街において、各種イベントを実施することにより、中心商店街の活性化に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	令和 6 年度は、高崎えびす講市など他の中心市街地活性化事業と連携して活動することで、駅前を中心とした賑わいを中央銀座アーケード街周辺に波及させることができた。
達成した（出来なかった）理由	各種イベントを開催することで、中心市街地の活性化に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中央銀座アーケード街において、各種イベントを実施したことにより、中心商店街の活性化に繋がった。
事業の今後について	中央銀座アーケード街だけでなく広く中心市街地の賑わいの創出に寄与する事業を検討し、実施していく予定。

⑨. 群馬交響楽団定期演奏会【再掲】（公益財団法人 群馬交響楽団）

事業実施期間	昭和 20 年度～【実施中】
--------	----------------

事業概要	“音楽のある街 高崎”を代表する群馬交響楽団によるコンサートを高崎芸術劇場で年間 10 回程度実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	舞台芸術創造活動活性化事業（文化庁）（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 250 人の内数としている。令和 6 年度は、10 回の開催、延べ 14,796 人の参加があり、昨年度と比較し、980 人減少したが、まちなかの回遊性向上に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1 日あたり 250 人の内数とし事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	音楽のある街 高崎 を代表する群馬交響楽団によるコンサートを高崎芸術劇場で実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客を図れた。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

⑩. ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも

（ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも実行委員会）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	市内外から集まった様々なジャンルのミュージシャンが中心市街地の約 20 箇所で同時に路上ライブを行い、一日中まちなかのどこもかしこもが音楽で溢れることにより、中心市街地の賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 7 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として 1 日あたり 250 人の内数としている。令和 6 年度は、中心市街地の 20 ヶ所で 166 組のミュージシャンが、ロックからクラシックまで幅広く披露し、多くの来訪者が多彩なステージを楽しみ、まちなか全体への集客に大きく貢献した。
達成した（出来なかった）理由	事業目標の歩行者・自転車通行量における効果として 1 日あたり 250 人の内数の集客の達成に十分寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	一日中まちなかに音楽があふれる空間を創出し、まちなかの回遊性を高め、活気あるまちなかにすることに寄与した。
事業の今後について	まちなかを歩いて回遊する機会を創出する事業として継続して実施する予定。

⑪. 高崎菓子まつり（高崎菓子業組合）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	市内の菓子職人が腕を振るったお菓子を一同に味わうことができるほか、プロが教える菓子づくり体験などを実施することにより、市内外からの多くの誘客を図り、まちなかの賑わいの創出につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年 4 月～令和 7 年 3 月）

事業目標値・最新値及び達成状況	集客型のイベントとして、令和6年10月19日にもてなし広場にて開催した。菓子作り体験や、どら焼き食べ比べ、スイーツセレクションなど、お菓子の魅力に触れてもらうイベントを実施することで、まちなかの賑わいの創出に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	事業目標の歩行者・自転車通行量における効果として十分寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	市内の菓子職人が作ったお菓子の販売や菓子づくり体験の実施により、市内外からの誘客を図ったことにより、まちなかの賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出に寄与する事業として、今後も継続実施していく予定。

⑫. たかさきキッズパーク（たかさきこどもまつり実行委員会）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の総合保健センター内に世界の優れたあそび道具を集めた全天候型のあそび場を設置することにより、親子連れなど多くの人々に楽しんでもらうとともに、まちなかを訪れる機会を創出し、活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	本事業は、まちなかの賑わいの創出や回遊性向上に寄与しており、令和6年度は9月14日から23日の10日間で開催し延べ3,463名の参加があった。
達成した（出来なかった）理由	事業目標の歩行者・自転車通行量における事業効果として十分寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	世界中の優れた遊び道具を集めた全天候型のあそび場を設置することにより、親子連れなど多くの人々が集まり、まちなかを訪れる機会を創出し、活性化に寄与した。
事業の今後について	より多くの人々がまちなかを訪れる機会を創出する事業として、世界の優れたあそび道具を集めた全天候型のあそび場を設置し、親子連れなど多くの人々に楽しんでもらうよう実施していく予定。

⑬. 高崎駅東西回遊促進事業（高崎市、公益財団法人 高崎財団）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	高崎駅東口に新たに整備された都市集客施設を訪れた人を、駅西口の大型店や商店街へ誘引するため、駅東西の大型ビジョンでの商店街等のPR、コンサート時の商店街や飲食店の情報チラシの折込などを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として1日あたり120人としている。令和6年度は、駅東西の大型ビジョンの活用や学生ボランティアによるチラシの配布等で周知を図り、1日あたり62人（数値目標の積算による算出）の効果が見られた。
達成した（出来なかった）理由	事業目標の歩行者・自転車通行量における効果として1日あたり120人の集客効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況	事業目標は達成出来なかったが、駅西口の大型店舗や商店街に誘引していく取り組みにより、一定数の集客効果が見られた。

及び事業効果	
事業の今後について	中心市街地全体の賑わいと回遊性を向上させるため、今後、関係各所と連携しながら様々な事業に取り組んでいく。

●今後の対策

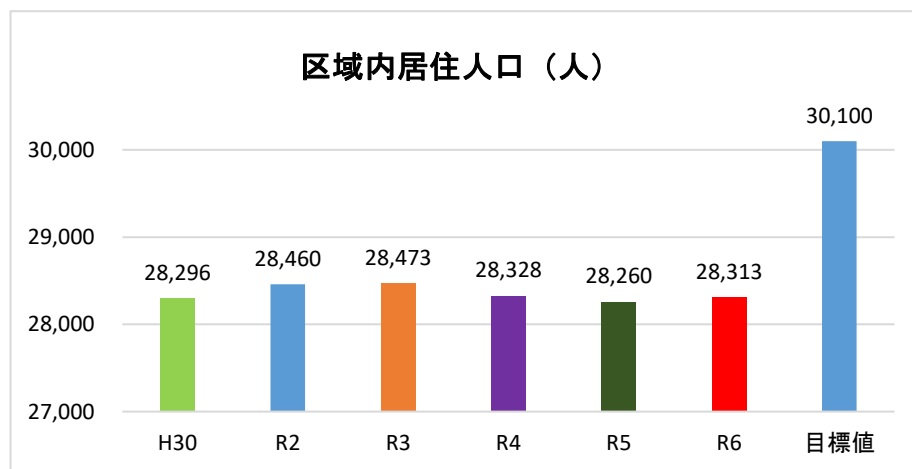
「歩行者・自転車通行量（休日）」は、新型コロナウイルスに伴う生活スタイルの変化などの影響により、基準値及び目標値を達成できなかった。引き続き、第4期基本計画でも目標指数とすることから、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ群馬などの都市集客施設でイベントを開催し市内外からの来訪者を呼び込むとともに、「お店ぐるりんタクシー運行事業」や「まちなかコミュニティサイクル推進事業」などの取り組みを継続実施し、まちなか全体へ賑わいを波及させる。また、事業の課題検証を行うほか、新たな事業にも取り組むことで、更なる回遊性の向上を目指す。

さらに、官民が連携してマンションなどの住宅整備を推進し、新規住民をまちなかに回遊させ、通行量の回復と増加を目指す。

（３）「区域内居住人口」（目標の達成状況【B2】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 50～P. 51 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	28,296 (基準年値)
R2	28,460
R3	28,473
R4	28,328
R5	28,260
R6	28,313
R6	30,100 (目標値)

※調査方法：高崎市住民基本台帳から対象人数を抽出

※調査月：令和7年3月

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地の区域を構成する36町の住民基本台帳上の人口

〈分析内容〉

本市全体の居住人口は減少傾向にあるが、中心市街地の居住人口は「高崎駅東口第九地区市街地再開発事業」により整備された高層タワーマンションや民間の高層マンション整備などの事業効果により、目標値には達しないものの基準値は超えたため、達成状況は【B2】とした。

中心市街地の世帯数は、高崎市全体と比較して増加しているものの、一世帯あたりの人数は、核家族化などの影響により減少傾向となっており、目標値には届かなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 高崎駅東口第九地区市街地再開発事業【再掲】

(高崎駅東口第九地区市街地再開発施行者)

事業実施期間	平成 27 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	当該地区に土地の高度利用を促進するため、共同住宅、駐車場、ペデストリアンデッキ等を整備し、高崎駅東口周辺の居住人口の増加と駐車場不足の解消、歩行者の回遊性向上に対応する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（平成 27 年度） 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成 28 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、整備による居住人口における効果を 583 人としている。令和 6 年度末で 285 人（住民基本台帳による数値）の入居となっている。
達成した（出来なかった）理由	当初の想定より、少人数世帯の入居が多く、事業効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	高崎駅東口第九地区市街地再開発事業により、高崎駅東口に新たな賑わい拠点ができ、居住人口の増加と歩行者の回遊性向上が図れた。
事業の今後について	交通の利便性や託児などの子育て環境の充実など住んでみたいと思われ魅力あるまちづくりを進め、空室への入居を促し、居住人口や歩行者・自転車通行量の増加につなげる。

②. 高崎市居住誘導策【再掲】 (高崎市)

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	高度利用地区の指定を行うことにより、容積率の緩和などを制度化することで、集合住宅等の立地を促進し、中心市街地の活力の源である居住人口とまちなかの通行量の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、居住人口における効果を 5 棟 875 人としている。令和 6 年度は、2 棟のマンションが完成し、令和 2 年度から令和 5 年度までに完成した 8 棟のマンションと合わせ、令和 6 年度末で 1,078 人（住民基本台帳による数値）となっている。
達成した（出来なかった）理由	事業目標値は、居住人口における効果を 5 棟 875 人とし事業効果に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	高度利用地区の指定を行うことにより、容積率の緩和などを制度化することで、集合住宅等の立地を促進し、中心市街地の活力の源である居住人口とまちなかの通行量の増加に寄与した。
事業の今後について	現段階では当該制度を活用した事例がないため、民間事業者の活用促進を図り、土地の有効活用や建物の高層化などの住宅整備を進めていく。

③. 多機能型住居住宅借上事業【再掲】 (高崎市)

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	多世代間交流を目的に整備された民間管理の多機能型住居において、高齢者や介護士、保育士、看護師等の職業を目指す学生等が入居できるよう、市が住宅借上等の支援を行うことで、まちなかの居住人口の増加を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、入居者数約 80 人を維持するものとしている。令和 6 年度の入居者は 66 人で、入居者も前年度より 7 名増加となった。
達成した（出来なかった）理由	高齢者や介護士、保育士、看護師等の職業を目指す学生等の入居が、増加傾向となっているが、年度替わりでの入退去もあり、事業効果に十分寄与できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	多世代間交流を目的に整備された民間管理の多機能型住居施設が整備されたことにより、看護師等を目指す女性からのニーズは高く、まちなかの居住人口の増加が図れた。
事業の今後について	学生等の年度変わりでの入退居に対して、入居者の維持が図れるよう努めていく。

●今後の対策

「区域内居住人口」は、官民が連携して、マンションなどの住宅整備を引き続き推進するとともに、「地域活動推進補助事業」などの継続実施を通じて、子育て世代や高齢者を含めた多くの人にとって住みたい、住み続けたいと思える賑わいあふれる街づくりを実施し、区域内の居住人口の維持・増加を図っていく。